2022-23年度派遣R財団奨学生　保川有梨さん一時帰国報告

2024年4月30日（火）

2022-23年度R財団奨学生でした保川さんが一時帰国されました。

平野、上野、檜垣の3名と共に、淡粋様でお食事を楽しみながら帰国の報告を伺いました。

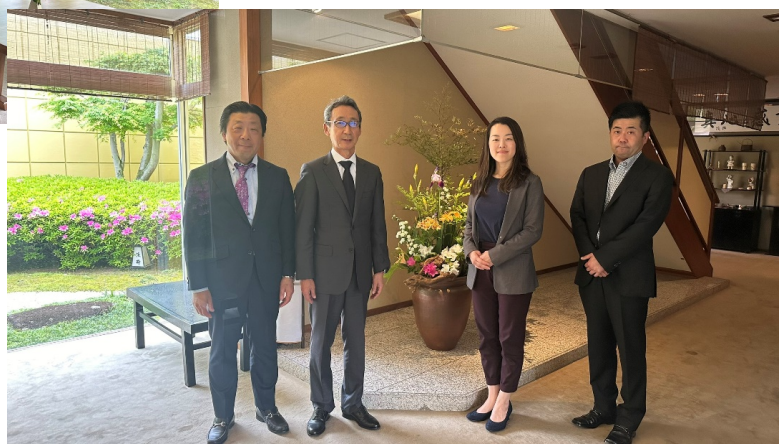
保川さんは大学を卒業され、現在は自然エネルギー発電に関する会社に勤めています。

業務内容は、太陽光発電によって作られたグリーンエネルギーをソフトウェアで管理し、売電や蓄電の全体的なプロセスをデザインすることです。

また、この帰国は、お勤めの会社の本社が韓国にあるため、本社での業務を終えた後の流れで実現しました。今後は現職を基盤に在学時のプロジェクトを発展させ、起業するという新たな夢に挑戦したいと抱負を語られました。

プロジェクト内容：近年の織物の大量生産、大量消費の問題に着目し、人々が楽しみながら資源を大切にし、環境汚染に取り組むことのアプリケーションの開発およびデザイン設計。

問題定義：米国は世界でも最大レベルのエネルギー消費国でありながら、そのリサイクル率は3割以下にも満たない。織物産業では、一人あたり年間70ポンド（31kg）の服が捨てられ、ファストファッションと呼ばれる、大量生産と消費が廃棄を加速させている。新しいものを常に手に入れ、飽きたら捨てるという社会の習慣は、年間必要以上分の服が作られることと密接しており、環境汚染の重要な要因になっている。こういった中、環境汚染や気候変動に歯止めがかからず、不安定な社会情勢が続いている。このような問題に対し、人々がもっている洋服を最大限に活用し、必要最小限でありながらあらゆるニーズに対応する織物産業の購入を促すにはどうすればよいか？洋服ダンスの最大活用というアイディアを活用しながら、個人に合わせた提案をAIを用いて行うアプリケーションを通して、この問題の解決を探る。



ご挨拶

木々の葉が鮮やかな緑に染まり青紅葉の美しい時期となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。先日、留学中に大変お世話になりました、ロータリーの皆様にお会いし、大変充実した時間を過ごすことができました。留学後もこのように暖かく迎えてくださったこと、心より感謝いたします。

私事ではありますが、昨年末からの米国での就職経験を経て、約半年がたちました。これまで在学中に環境や教育に関わるプロジェクトに携わる中で、クリーンエネルギー関連の会社と出会ったのも、何かのご縁だと感じております。日々の業務では、ソーラーパネルやバッテリーを使用したり、エネルギーを販売したりする顧客が何に興味を持っているのか、また何を知っていて知らないのか（教育する必要があるのか）といった顧客の特定や、彼らが必要とするプロダクトのデザインを行っております。また、エネルギーを管理する社内ユーザー（B2B）のデザイン面でのサポートも行っています。

これらの経験を通し、これまで自分が携わってきた教育というものは、どの分野のどの時期でも常に身近に存在するものだということを改めて感じました。また、デザインを学んでから感じたのは、教育は日々の経験の中から意図して創り出せる（デザインできる）ということです。私は、学校教育を経験してきたため個人に焦点を当てがちだったこともあり、システム面から教育をデザインするという経験は、自分にとって新しく、視野の広がる経験でした。教育の場を「創り出す」ということを考えたときに、より大きな枠組みで考えることが、個人だけでなく、社会全体にとって利益を生み出すことにも繋がるようにも感じます。在学中のプロジェクトは、個からシステムに目線を移して、大きなインパクトに繋がるチャンスを考えさせるきっかけをくれました。

これからまだ先は遠いですが、地に足をつけ、現在の業務からの学びを通して、将来の目標に向かって歩み続けたいと思います。

ロータリーの皆様には大変お世話になり、また、平野さま、上野さま、檜垣さまにもいつもお心遣いをいただきましたこと、本当に有り難い経験でした。お食事会では、皆様私の話を熱心に聞いてくださったことも大変感謝しております。また、地域の話題やビジネスオーナーの目線からのご教授もいただきました。皆様大変ご経験豊富でありながら、もの柔らかで、お会いするたびに振る舞いから感じることや学ぶことがあります。私もそんな先輩方の背中を追いながら、成長していきたいです。末筆ながら皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。